

財団ニュース

昭和52年度才ニ号

山田科学振興財団

晩秋初冬の候と相成りました。ご一同様にはお変わりなくお過ごし
の由と拝察いたします。

さて、去る8月中旬にお送りした第1号につづき、今回財団ニ
ュース第2号をお届けいたします。

お蔭様を持ちまして、6月以降派遣、招へい及び集会の援助等い
ずれも順調に進んでおります。また、研究援助申請も10月末日に締切
りました。そこで、まず以上の各件を今後の事業活動予定表とともに
「業務及び事業報告」にまとめて、ご覧に入れます。

次に、現行の各種の「援助項目、申請及び予算の検討結果」を報告
します。いう迄もなく、結論の一部は今年末に俟たねばなりません
が、この検討から明年度のよりよき業績が生れるようにと切望して
おります。

そして最後に、「将来の事業構想」と題して企画について記
しました。

以上の報告及び検討を行うために、10月26日に大阪において、
第1回臨時評議員会及び第2回臨時理事会を開催しましたので、本
ニュースには席上得られた結論、提案あるいは意見等をも盛りこみ、議
事録のコメンタリとしてもお役に立つよう心がけた心算でございます。

昭和52年11月17日

山田科学振興財団事務局

業務及び事務報告

1. 10月31日現在、財団業務の状況は次の如くです。

	受付件数	実 施	審 査 中	不 採 択
招 へ い	15	6	1	8
派 遣	89	39(注)	9	41
集 会	22	10	8	4

(注) 決定後辞退2名

2. 10月31日現在 本年度の援助予算の使用状況は、招へい・派遣で既に若干予算を超過し、集会で未だ余裕を残しております。

3. 10月7日迄に事業方針検討、選考業務等の為め臨事理事会を1回(7/8)、選考打ち合せ会を6回(6/10、6/20、7/8、8/13、9/15、10/7)開催いたしました。

4. 援助完了報告等(受取順)
(派遣)

実施日	援 助		受 理 物 件				
	氏 名	目 的	請求書	写真	旅程	受領書	成果報告書
6/25	米沢富美子	アモルファス及び液体半導体国際会議	○	○	○	○	○
7/15	菅野義信	国際生理学会他	○	○	○	○	○
7/16	深見博一	高等動物の酵素に関する協同研究	○	○	○	○	
8/5	佐藤文隆	第8回GRG国際会議他	○	○	○	○	○
8/5	堀江正治	国際陸水学会、国際第4紀学会	○	○	○	○	○
8/14	清水幹夫	惑星気圏に関するシンポジウム	○	○	○	○	○
8/20	松尾隆祐	第5回国際化学熱力学学会	○	○	○	○	○

実施日	援助		受理物件				
	氏名	目的	請求 詳細書	写真	旅程	受領書	成果 報告書
7/5	菅野道夫	人間へのサービスの為の第1回世界数学会議	○	○	○	○	○
8/12	杉浦昌弘	第11回ヨーロッパ生化学連合会議	○	○	○	○	○
9/15	窪田信三	第5回真空紫外国際会議	○	○		○	○
6/30	清水忠雄	第3回レーザー分光学会国際会議 他	○	○	○	○	○
8/5	浅野長一郎	MEDINFO'77とIFIPのjoint Meeting	○	○	○	○	○
8/10	坂部知平	第4回ヨーロッパ結晶学会 他	○	○	○	○	○
8/10	坂部貴和子	"	○	○	○	○	○
9/3	池田正之	生物異物代謝に関する国際会議 他	○	○	○	○	○
12/16	嶋田勝彦	細胞運動の会議 他	○	○	○		
11/1	斉藤喜八	アメリカ神経学会	○	○	○	○	
9/3	山本雅彦	第24回国際フィールドエミッションシンポ他	○	○	○	○	○
9/15	斉藤基彦	2nd Int. Conf. on the Electronic Properties of 2-Dimensional Systems	○	○	○	○	
9/16	高木ミエ	第4回強誘電体国際会議 他	○	○	○	○	
9/3	伊藤維昭	細菌皮膜の機能に関するシンポ	○	○	○	○	○
10/7	中井祥夫	着色中心会議	○	○	○	○	○
9/3	川村 肇	第3回微小ギャップ半導体国際会議 他	○	○	○	○	○
10/5	及川 淳	第10回色素細胞会議	○	○	○		○
10/1	中川久夫	国際地質対比計画 新第3系・第4系境界国際討論会	○	○	○	○	○
33/1/3	長野晃三	蛋白質の折りたたみ機構と進化の問題に関するシンポジウム					
10/20	松岡 勝	X線天文学に関する学術研究	○	○	○	○	
12/1	桑沢清明	心臓の比較生理学に関するシンポ	○	○	○		
33/1/3	芦田玉一	生体化合物の構造機能進化に関するシンポジウム					
11/5	石川義和	カーペンター氏招へい準備 他	○	○	○	○	
9/30	平石裕実	第3回マイクロプロセッシングとマイクロプログラミングに関するシンポジウム	○	○	○	○	
3/3	橋本功二	国際会議招待講演					
10/21	岩倉義男	第6回国際高分子シンポジウム参加	○	○	○	○	○

実施日	援 助		受 理 物 件				
	氏 名	目 的	請求 明細書	写真	旅程	受領書	成果 報告書
11/28	鈴木宏治	表層蛋白質の構造と作用に関する会議等	○	○	○		
10/14	小高忠男	日米エラストマーセミナー招へい講演	○	○	○	○	
12/15	岸輝雄	A.Eに関する物理的並びに冶金学的会議	○	○	○		

(招へい)

実施日	援 助		受 理 物 件				
	申請者及び被招へい者 氏 名	目 的	請求 明細書	写真	旅程	受領書	成果 報告書
6/28	佐藤文隆 ノバート・シュミット	第5回国際高エネルギー弱相互作用研究集会	○	○	○	○	○
7/29	佐藤文隆 カツミ・タナカ	"	○	○	○	○	○
10/10	伊藤 敬悟 正 宗	第10回構造有機化学非ベンゼン系芳香族化学集会	○	○	○	○	
533/1	石川義和 J.M.カーペンター	高エネルギーパルス中性子源施設(KENS)の遮蔽計算についての研究援助					
535/6	上村 アラン・J・ヒーガー	TTF・TCNQ(SN)2等の一次元性金属物質の研究					
11/14	阿部 寛 マウリス・グリックスマン	固体プラズマに関する講演等	○	○	○		

(集会)

実施日	援 助		受 理 物 件			
	申請者氏名	集 会 名	請求 明細書	受領書	成果 報告書	
7/19	谷川安孝	第5回国際高エネルギー弱相互作用集会	○	○	○	
9/5	菅原 忠	超低温物理国際シンポジウム	○	○		
9/26	尾崎 萃	第4回日ソ触媒セミナー	○	○		
10/7	大森昌衛	第3回無脊椎動物および植物の石灰化機構に関する国際会議	○	○	○	
8/29	寺山 宏	第8回国際発生生物学会議	○	○	○	
9/16	大塚齊之助	第2回均一系触媒国際ワークショップ	○	○	○	
9/2	柳父琢治	少数粒子系の物理学シンポジウム	○	○	○	
9/14	古川淳二	高分子コロキウム	○	○	○	
10/10	八木国夫	アジア・オセアニア地域生化学者連合(FAOB)第1回会議				

5. 研究援助申請のまとめ

	A	B	小計件
数物系	4	3	7
化学系	9	8	17
生物系	6	7	13
工学応用理学系	8	8	16
医学系	1	10	11
広(複合)領域	8	4	12
小計件	36	40	総計76件

6. 昭和52年度 今後の事業活動予定表

10月 下旬		○ 研究助成締切日
11月 19日	第2回選考委員会	○ 研究助成選考手順、分担等審議
12月 17~18日	第3回選考委員会	○ 研究助成審議
1月 中旬	第4回選考委員会	○ 研究助成最終審議(面接を含む)
2月 下旬	第2回 理事会 評議員会	○ 研究助成審議 ○ 選考委員改選 ○ 次年度事業計画予算等審議
3月 下旬	贈呈式	

援助項目、申請及び予算の検討結果

(決 = 決定事項、継 = 継続審議事項)

1. 明年度の招へい

- イ、短期間招へいに500万円を見込み、長期間招へいもノ名試みたい(決)
- ロ、協同研究への被招へい者には、新進研究者を優先(決)
- ハ、メ切り日は作らず、出発の6ヶ月前に申請(決)

2. 明年度の派遣

- イ、短期間派遣は今年度なみを見込み、別に長期間派遣をノ名以上試みたい(決)
- ロ、協同研究へ派遣される者には、新進研究者を優先(決)
- ハ、短期間派遣では審判を円滑に行うために、出発の最短3~4ヶ月前に申請、長期間派遣では年2回メ切りし、出発の最短6ヶ月前に申請(決)
- ニ、長期間派遣における交換外客適格証明書を持つ意味、援助費目を制限すること、開発途上国又は日本人が訪れることの少ない国への派遣の価値などについて発言があった。

3. 明年度の集会

- イ、専門的な、水準の高い、小型の、参加人員ノ0名内外の集会を主対象とする(決)
- ロ、メ切り日は年ノ回、慎重に準備を進めている集会を主対象とする(決)
- ハ、プロシーディングなどにacknowledgementを掲載するよう積極的に要求する(決)
- ニ、費目を制限して、外人渡航費又は国内移動旅費等のみを援助せよ或いは一般的な集会への援助の焦点は、財団の主体性と援助のidentityを把握してこそ、絞れるという発言があった。

4. 明年度の研究援助

- イ、指定学会による推せん制を一応採用(決)
- ロ、学会の挿し換え、推せん件数の増減、財団役員による推せん制の併用、広域研究に限っての公募、選考能力を向上させた上での全面公募など種々の意見が出たが絞れず(継)
- ハ、今回の審判では、特定の専門分野では臨時の選考委員を委嘱できるが、現委員が個人的にコンサルトして、済ませるようにしようと申し合せた(決)
- ニ、学会への推せん礼金は考慮すること(決)

5. 明年度申請書の改訂（研究援助は後日）

現在、切り日のない招へい、派遣及び集会への援助申請は、明年度の分が既に事務局に参っていますので、今回改訂された新申請書を急いで配布して、円滑な切り換えを行いたいと思います。幸いこのたびの会合で、申請要領のご批判を得ることができましたので、出来れば12月中に各方面へ発送したいと願っております。（事務局）

6. 以上で本項の記事を終りますが、お話の間から考え付いた事務局としての昭和53年度事業計画及び援助費案をお目にかけます。（事務局）

昭和53年度事業計画及び援助費案

項 目	52年度予算 (万円)	52年度実績 (万円)	53年度予算 (万円)	備 考
研 究 援 助	1,2500		1,2000	
招へい・派遣	2,200		4,000	
招へい	200		1,000	長期招へい含
派 遣	2,000		3,000	長期派遣含
学術交流集会	2,300		1,000	
山田セミナー	1,500		1,500	
合 計	18,500		18,500	

将来の事業構想

1. 山田賞（仮称）

明年度も実施を見送る前提のもとに、その性格を巡り、意義、対象分野、受賞対象者の範囲（国際、国内）、選考方法、額、数などに亘って多くの発言あり、さらに具体的な意見を徴するためにアンケートを事務局が考えることが宿題（継）

2. NIHとの交流

財団は長期間の招へい、派遣を活用する(決)。学振が財団群と話し合う辺りから出発かといわれる。

早石評議員からは今夏訪米時における調査、交渉のいきさつが報告された。

3. ポスト・ドクトラル研究者への援助

財団としては対外的には長期間派遣を活用する(決)。

国内的には中央でも試行中で、当方は差し当りは見送り、学振が財団群と話し合う辺りから出発するべきかとの発言があった。

4. 山田セミナー（仮称）

- イ、財団の主体性と援助の identity が求められ、このセミナーを内から生み出す意味で、谷口、ゴードン、王子の各企画を引き合いに、世話人及び主題を指定制にするか公募にするかの問題、規模（国際的か国内的か）、費用、回数などが論ぜられた（継）
- ロ、既に申請が出ている集会（秦野節司 アクチン-ミオシン系細胞運動の機構）を候補に推す価値ありとの発言があったが、結論に達し得ず（継）

事務のお知らせ

1. 赤堀理事長殿は本年10月20日、目出度くも喜寿を迎えられました。仁田理事殿も昨年10月19日に喜寿をお迎えですので、ご両所のご長寿とご活躍を祝って、10月26日の理事会終了後夕食会の席上、永宮理事殿の祝辞のあと、江崎理事殿の発声で、一同杯を挙げて祝意を表しました。
2. 近藤監事殿がこのたび国立公害研究所副所長を拜命されました。ご活躍をお祈りします。

300-21 茨城県筑波郡谷田部町館野

国立公害研究所（TEL）0298-51-1681